

【水生生物調査実習】 プロ講座受講生を対象としたフィールド実習を開催

11月25日・26日、長野県黒姫のアファンの森において水生生物調査の実習を行いました。この実習は(財)C.W.ニコル アファンの森財団の、アファンの森における水生生物調査を兼ねており、調査実習の結果がそのまま報告書という形で提出されるという実践的なものです。今年9月にスタートした「ビオトープ管理プロ養成実践講座」の受講生がこれまで学んできた調査法や報告書作成などのプログラムを実践する、またとない機会になりました。



天気にも恵まれ、冬枯れのアファンの森はとてもきれいでした。



調査の方法と注意事項などを確認してから、調査地点に移動。



調査開始。3つの調査区を設定し3班に分かれて水生生物採集を行いました。



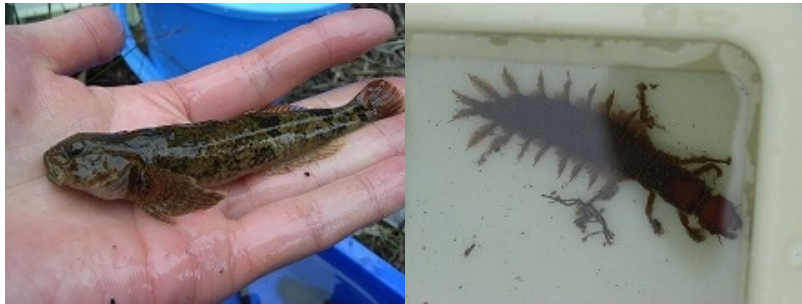
採集物は持ち帰ってソーティング(分類)を行い、同定をします。



深夜までかかって同定を行った結果、トビケラ、カゲロウ、ヤゴ、ゲンゴロウや
コオイムシなどたくさんの生物を確認・同定することができました。
写真は(左)ゴマフトビケラ属幼虫、(右)ルリボシヤンマ幼虫です。



26日は朝から鳥居川で調査を行いました。アファンの森とは環境の異なる水域で、生物相の違いを見てみました。



ここでもカワゲラ、トビケラ、ヤゴ、イワナなどなど、たくさんの生物を確認でき、やはり、環境が変わると生物相も違ってくることがわかりました。同じ科の生物でも流水を好む種が多く確認できました。写真は(左)カジカ、(右)ヘビトンボ幼虫です。

今回確認した生物の多くは都会ではなかなか見ることのできないものだったので、受講生はとても勉強になったのではないのでしょうか。また、実際の調査を兼ねた実習ということで、より実践的な良い経験ができたと思います。また一歩、プロのビオトープ管理士に近づきましたね。